

韓国語身体語彙慣用句の研究 (2)

—— 韓国語教育・日韓比較文化論のために ——

延 鎮 淑

1. はじめに

「韓国語身体語彙慣用句の研究 (1)」¹ に引き続き、韓国語身体語彙に関する慣用句についてのいくつかの考察を進めることとする。本稿執筆の理由は、身体語彙慣用句の研究では身体語彙全般に渡って考察する必要があるが、前稿の論文では紙面の都合で身体語彙に関する慣用句全般を取り上げることができなかつたからである。内容の面において少々重複する部分もあるが、それは慣用句自体の意味や考察範囲等において同質性が生じるからである。前回の論文においては、韓国語の数多い身体語彙慣用句の中で、上半身を中心に韓国で実際よく使われている慣用句が何かを提示し、また日本語と韓国語の慣用句における類似点と、相違点を示した。

本稿では、前回に引き続き、上半身の残りと下半身と体全体に関わる身体語彙慣用句について前回と同様の手法で論を進める。

本論で提示している韓国語慣用句に対する日本語の意味を表の中の「慣用句の意味 (日本語)」に記してあるが、これは辞書の記述に基づく。しかし韓国語の慣用句をそのまま日本語直訳にしても意味が変わらないものもある (例えば、「피 (血) に関する慣用句」の 127 番ほか)。違う言語だから慣用句は似て非なるものであると一言で片付けるには、あまりにも似ている慣用句の例が散見される。このように日本語と韓国語に似ているあるいは同じ慣用句が数多く存在するのは、日韓併合時代に互いに影響し合っていたことも一つの理由として挙げられるであろう。

慣用句の定義に関しては前考同様広辞苑 (2008 年第 6 版) の定義に引き続き従い、「二語以上の語から構成され、句全体の意味が個々の語の元来の意味からは決まらないような慣用的な表現」とする。

外国語教育における慣用句の取り扱いに関してはいつも言われていることであるが、どの段階で扱うべきかの問題は依然として残っているであろう。そのため本稿においても、慣用句を外国語教育に生かす方法の一つとして、コミュニケーションを円滑に運ぶための一つの方法であると考えている。つまり、韓国語学習の中・上級段階での会話表現としてもっと豊かな意思表示法の一つとして慣用句があると考えているからである。

「韓国語身体語彙慣用句の研究 (1)」では、初級課程で慣用句を教える場合、いくつくらいの慣用句を提示する必要があるかについてはまったく議論をしていなかったが、それに関して本稿で言えることは、調査結果を元に韓国の大学生が 100 パーセント近く認知されている慣用句をいくつかを初級用慣用句として教えることは可能ではないかと考えている。そのためには身体語彙慣用句に限らず、慣用句全体を調査し、研究する必要がある。

慣用句にはその国の独特の表現法が含まれていることに関しては前稿でも触れた。外国語教育の様々な側面からも慣用句をマスターすることは外国語学習、特に日本語と類似点の多い韓国語学習においては重要であると前稿同様に考えている。

本稿では、現代韓国大学生の身体語彙慣用句の実態調査結果に基づいて、教えるべきだとする慣用句を選定したあと、それを日本の韓国語教育に活かすことを目的としており、

そのためのリスト作りがまず第一に必要であろう。

慣用句研究にあたって、前稿では上半身中心の身体語彙慣用句に限定していたが、本稿では、上半身で扱いきれなかった残りの慣用句、下半身と体全体に関わる慣用句を中心に考察を進める。

前稿で考察を行った身体語彙慣用句は、1)가슴(胸)、2)간(肝)、3)귀(耳)、4)눈(目)、5)등(背)、6)머리(頭)、7)고개(首)と목(首・喉)、8)배(腹)、9)손(手)、10)어깨(肩)、11)얼굴(顔)、12)입(口)、13)코(鼻)などである。

本稿では、前稿では主として紙面の都合で扱えなかった上半身に関する 1)이마(額)、2)눈썹(眉毛・睫毛)、3)혀(舌)、4)이(歯)のほか、下半身に関する 5)허리(腰)、6)엉덩이(尻)、7)무릎(膝)、8)오금(ひかがみ)、9)발(足)・다리(脚)について論じ、さらに体全体に関わるものとして 10)몸(身)、11)애(内臓)・뱃(腸)・쓸개(胆嚢)、12)뼈(骨)、13)심장(心臓)、14)피(血)、15)숨(息)・목숨(命)などの慣用句を取り上げることとする。これで全ての身体語彙慣用句が揃ったわけではないが、韓国語の身体語彙慣用句のほぼ全体について意味と使用状況がわかるリストが出来たと言うことができよう。

2. 調査の概要

韓国・清州大学の学生 109 名を対象に、前回 (2007 年) と同様の方法で 170 項目の身体語彙慣用句を示して、「知っていて実際使っている」慣用句にチェックをしてもらった。そして項目には含まれていないが、使っている慣用句があれば、記入するようにお願いをした。調査に使用した 170 項目の慣用句は、韓国語学習者が一般的によく使う電子辞書 (韓国シャープ製) に載っているものに限定した。

(表 1)

内 容	韓国語の身体語彙慣用句の使用状況について (170 項目) 例: 발이 넓다 (日本語直訳: 足が広い) 발이 저리다 (日本語直訳: 足がしびれる) 他
対 象	清州大生 (韓国)
人 数	109 名
時 期	2008 年 9 月

3. 韓国大学生の慣用句使用状況

1) 이마 (額)

日本語の「이마 (額) に関する」慣用句の場合イム・パルヨン(2006)では、이마(額)について、「額に青筋がうかぶ」、「額に汗する」、「額にしわを寄せる」、「額に八の字を寄せる」、「額を集める」といった用例を提示している。

韓国語の場合は、慣用句辞典²によると、調査対象になった慣用句の他に「이마를 (탁) 치다³ (額を打つ)」、「이마에 와 닿다⁴ (額に触れる)」、「이맛살을 찌푸리다⁵ (額の肉をしかめる)」がある。1番「이마를 맞대다(額をつけ合う)」と3番「이마에 피도 안 마르다 (額の血も乾かない)」は、「이마 (額)」の代わりに「머리 (頭)」を使うことが多いと書き込んでくれた学生が大勢いた。3番「이마에 피도 안 마르다 (額の血も乾かない)」を知っていて使うと答えた学生が予想より少なかったのはそれが理由であろう。3番「이마에 피도 안 마르다 (額の血も乾かない)」は、「生まれて間もない」ということで「まだ青二才だ」の意味を表す。

慣用句の表に関する見方 (以下表(2)～表(16)までこの示し方に従うこととする)

ア：使用レベルの区別	A=95人以上、B=80人以上、C=70人以上、D=60人以上、 E=50人以上、F=40人以上、G=39人以下
イ：使用人数計 (調査人数；109人)	

(表 2)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
1	이마를 맞대다	B	80	額をつけ合う	膝を突き合わせる
2	이마에 내 천 자를 쓰다	G	4	額に川の字を書く	顔をしかめる 額に八の字を寄せる
3	이마에 피도 안 마르다	D	62	額の血も乾かない	まだ青二才だ

2) 눈썹 (眉毛・睫毛)

韓国語の「눈썹」の意味は、日本語の「眉毛」と「睫毛」の両方の意味を含んでいる。一般に「眉毛」を表す場合が多い。一方「睫毛」は、「中にある目の毛」という意味の「속눈썹」とも言う。4～5番の慣用句は、「눈썹 (眉毛)」を用いているが、実際にこの慣用句で意味しているものは「속눈썹 (睫毛)」と言える。調査項目のなかで使用レベルが最も高いのは、5番「눈썹도 까딱하지 않다 (睫毛をピクとも動かさない)」であるが、この慣用句も「이마 (額)」と同様、「눈썹 (眉毛・睫毛)」を用いるより「눈도 까딱하지 않다 (目をびくとししない)」のように「눈 (目)」を表す意味として使われることが多い。

(表 3)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
4	눈썹 싸움 하다	G	3	睫毛で喧嘩をする	寝ないように頑張る
5	눈썹도 까딱하지 않다	C	75	睫毛をピクとも動かさない	びくとししない
6	눈썹에서 떨어진 액(厄)	G	1	睫毛から落ちた災い	思いがけない災難

3) 혀 (舌)

「혀 (舌)に関する慣用句」は、「혀 (舌)」の機能や役割と関係の深い「話す」、「意思表示」の意味がほとんどである。7番「혀가 꼬부라지다 (舌が曲がる)」は、飲みすぎて言葉がうまく話せない時によく使われる表現である。8番「혀가 돌아가다 (舌が回る)」は、「よく話ができる」の意味で使われている。9番「혀가 짧다 (舌が短い)」は、正確な発音ができない人のことを指して使われている。使用レベルが最も高い慣用句は、9番「혀가 짧다 (舌が短い)」99人に続き、11番「혀를 내두르다 (舌を振り回す)」90人と14番「혀를 차다 (舌を蹴る)」92人である。

(表 4)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
7	혀가 꼬부라지다	C	76	舌が曲がる	呂律が回らない
8	혀가 돌아가다	G	33	舌が回る	よくしゃべる
9	혀가 짧다	A	99	舌が短い	くちごもる
10	혀를 굴리다	C	79	舌を転がす	口から出任せを言う
11	혀를 내두르다	B	90	舌を振り回す	驚き等で言葉が出ない
12	혀를 내밀다	C	77	舌をぺろりと出す	裏で他人を誹謗する・自分の失敗を恥ずかしがる動作

13	혀를 놀리다	D	67	舌を遊ばす	しゃべる
14	혀를 차다	B	92	舌を蹴る	舌打ちをする
15	혀끝에 오르내리다	G	24	舌先に(舌先のあたりを)上り下りする	他人に噂される

4) 이 (齒)

両国語の「이 (齒) に関する慣用句」は、「悔しい気持ち」の表現が目立つ。18番「이를 갈다 (齒を削る)」と19番「이를 악물다 (齒をくいしばる)」は、「이 (齒) 慣用句」以外の慣用句と比べてみても比較的に使用レベルが高い。17番「이가 빠지다 (齒が抜ける)」は、器のふちが欠けたことを意味するが、韓国ではふちが欠けた器は、縁起が悪いということに使わないことが多いが、日本では食堂などで見かけることがある。縁起が悪いというのは、食べる時や洗う時に怪我をする危険性があるからである。

(表 5)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
16	이가 갈리다	E	56	齒が削られる	齒ぎしりをしてくやしが がる
17	이가 빠지다	D	69	齒が抜ける	ふちが欠ける
18	이를 갈다	A	98	齒を削る	齒ぎしりをしてくやしが がる・乳齒が抜け替わる
19	이를 악물다	A	100	齒をくいしばる	齒を食いしばる

5) 허리 (腰)

「허리 (腰) に関する慣用句」は、イム・パルヨン (2006) が集めた用例は、日本語の場合 24 例、韓国語の場合は 13 例である。今回の調査では、「허리띠 (腰ひも=ベルト)」も入れて 9 例の慣用句の調査を行った。調査項目の中で、最も使用レベルが高いものは 28 番「허리띠를 졸라매다 (腰ひもをきつく締める)」である。109 人のうち 105 人が使うと答えた。2008 年の世界的に厳しい経済的な不況を物語っている気がする。24 番「허리를 잡다」と 25 番「허리를 쥐고 웃다」は「爆笑する」という意味だが、「腰を掴んで笑う」より「**お腹**を掴んで笑う」、「**お臍**を掴んで笑う」がよく使われることから使うと答えた人が少なかった。

(表 6)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
20	허리가 꼳꼳하다	B	90	腰がまっすぐだ	歳に比べ若い
21	허리가 부러지다	C	78	腰が折れる	氣勢が弱くなる・可笑しい
22	허리를 굽히다	B	91	腰を曲げる	謙遜な態度を取る
23	허리를 못 펴다	C	70	腰を曲げられない	他人に堂々とできない
24	허리를 잡다	F	42	腰を掴む	爆笑する
25	허리를 쥐고 웃다	G	14	腰を握って笑う	爆笑する
26	허리를 펴다	C	78	腰を伸ばす	苦境から脱して一安心する
27	허리띠를 느추다	G	14	腰ひもを緩める	生活に余裕が出る・緊張を解く
28	허리띠를 졸라매다	A	105	腰ひもをきつく締める	質素な生活をする・決意や覚悟を新たにする

6) 엉덩이 (尻)

「엉덩이 (尻)」を使った日本語の慣用句は、20 例以上あるのに対して、韓国語の慣用句は 5, 6 例に過ぎない。日本語の「엉덩이 (尻) に関する慣用句」の意味には共通性があまり見られないが、韓国語の慣用句は、「動作」、「状態」という共通点が見られる。

(表 7)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
29	엉덩이가 구리다	G	6	尻が臭い	疑わしい・怪しい
30	엉덩이가 근질근질하다	B	83	尻がむずむずする	じっとしてられない
31	엉덩이가 무겁다	A	99	尻が重い	長居する
32	엉덩이를 붙이다	C	74	尻をつける	長居をする
33	엉덩잇바람이 나다	G	3	尻風が出る	うれしくて体の動きが軽い

7) 무릎 (膝)

「무릎 (膝) に関する慣用句」も日本語の方の数が多い。34 番「무릎을 꿇다 (膝をつく)」、35 番「무릎을 치다 (膝を打つ)」は、両国語ともに同様の形・同様の意味をもつ慣用句である。

(表 8)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
34	무릎을 꿇다	B	94	膝をつく	屈服する・膝を折る
35	무릎을 치다	D	67	膝を打つ	(感心して)膝を打つ

8) 오금 (ひかがみ)

多くの現代日本人は、ひかがみが体のどこを指すのかわからない。さらに聞いたこともないという人が多い。ひかがみを「膝の裏」と表現することが多いようだ。韓国語の場合、ひかがみを使う慣用句は多いが、使用レベルが高いものは、45 番「오금이 저리다 (ひかがみがしびれる)」1 例しかない。

(表 9)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
36	오금에서 불이 나게	G	8	ひかがみに火が点いたように	せっせと動き回る
37	오금을 못 쓰다	G	10	ひかがみを使えない	身動きが取れない
38	오금을 못 펴다	G	22	ひかがみを伸ばせない	身動きが取れない
39	오금을 박다	G	3	ひかがみを打ち込む	とどめを刺す
40	오금을 펴다	G	15	ひかがみを伸ばす	気楽になる
41	오금이 굳다	G	6	ひかがみが固まる	動きが取れない
42	오금이 뜨다	G	0	ひかがみが浮く	落ち着きがない・遊びほうける
43	오금이 박히다	G	5	ひかがみが打ち込まれる	やり込められる
44	오금이 쑤시다	F	44	ひかがみが痛い	うずうずしている
45	오금이 저리다	A	102	ひかがみがしびれる	足が痺れる

9) 발 (足)・다리 (脚)

「발 (足) に関する慣用句」は、今回調査した慣用句の中で数が最も多い。日本語も「발 (足) に関する慣用句」は比較的多くてイム・パルヨン (2006) では 48 例を集めている。韓国語の「발 (足) に関する慣用句」は、65 番から 84 番までのように「발 (足)」単独

で慣用句を作る場合もあれば、46番から64番までのように「발 (足)」のあとに「걸음 (歩き)、그림자 (影)、길 (道)、꿈치 (関節の裏)、뒤축 (踵)、등 (甲)、목 (首)、바닥 (底)」等多様な名詞が接続している慣用句を作る場合も数多くある。

意味は、「발 (足)」の持つ動作性の機能や役割と関わりのあるものが多く見られる。58番の「期限がすぐ目の前にある」の意味で使う慣用句は、韓国語は「발등에 불이 떨어지다 (足の甲に火が落ちる)」と言うが、日本語は「尻に火が付く」と言う。危機をもたらすものは両国語ともに「火」であるが、場所は、韓国語ではそれが「足の甲」に日本語は「尻」となる。

61番の「발등을 찍히다 (足の甲を刺される)」は、「裏切られる」という意味だが、「발등을 찍히다」より「믿는 도끼에 발등을 찍히다 (信じていた斧に切られる)」のように「믿는 도끼에 (信じていた斧に)」とセットで使うことが一般的である。

「다리 (脚)」に関する慣用句について見てみよう。日本語の「あし (足・脚)」は、単語一つで「足」と「脚」両方の意味を持っている。しかし韓国語は、「足」は「발」、「脚」は「다리」と使い分けている。それで韓国語には「발 (足)」に関する慣用句の他に「다리 (脚)」に関する慣用句が存在する。しかし非常に少ない。その理由として考えられるのは、「발 (足)」に関する慣用句が数多く存在するからではないかと考えている。要するに「발 (足)」と「다리 (脚)」は、日本語では一語で表すように非常に密接な関係にあることから「발 (足)」に関する慣用句が「다리 (脚)」に関する慣用句の役まで果たしているからであると思われる。

使用レベルが最も高いのは、67番「발을 똥똥 구르다 (足を踏み鳴らす)」102人に続き、58番「발등에 불이 떨어지다 (足の甲に火が落ちる)」100人である。だが、殆ど使われていない慣用句も多い。

(表 10)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
46	발걸음도 안하다	D	62	歩みもしない	足を止める
47	발걸음을 끊다	B	86	歩みを断つ	往来しない
48	발그림자도 들어놓지 않다	G	39	足の影も踏み入れない	全く顔を見せない
49	발길에 차이다	E	50	足で蹴られる	ぞんざいに扱われる
50	발길을 끊다	B	92	足を断つ	往来をやめる
51	발길이 끊기다	C	79	足が断たれる	人の往来がしない
52	발길이 내키지 않다	F	47	足が出せない	行く気になれない
53	발길이 멀어지다	G	39	足が遠くなる	足が遠のく
54	발길이 무겁다	B	83	足が重い	行く気になれない
55	발꿈치를 물리다	G	9	踵を噛まれる	裏切られる
56	발 뒤축을 물다	G	6	踵を噛む	陰で人の邪魔をする
57	발뒤꿈치도 따를 수 없다	G	31	踵もついていけない	足下にも及ばない
58	발등에 불이 떨어지다	A	100	足の甲に火が落ちる	尻に火がつく・期限が迫っている
59	발등을 디디다	G	15	足の甲を踏む	機先を制する
60	발등을 밟히다	E	52	足の甲を踏まれる	先を越される
61	발등을 찍히다	A	98	足の甲を刺される	裏切られる
62	발등의 불을 끄다	F	43	足の甲の火を消す	目の前の危機を交わす
63	발목을 잡히다	A	98	足首をつかまれる	弱みを握られる

64	발바닥에 흙 안 묻히고 살다	G	23	足の裏に土をつけずに生きる	苦勞せず生活する
65	발에 차이다	F	49	足に蹴られる	ありすぎて溢れている
66	발을 끊다	F	40	足を断つ	絶交する・関係を断つ
67	발을 동동 구르다	A	102	足を踏み鳴らす	地団太を踏む
68	발을 들여놓다	C	70	足を踏み入れる	あることに加担する
69	발(을) 벗고 나서다	A	99	足(靴)を脱いで出る	一肌脱ぐ
70	발을 빼다	C	74	足を抜く	手を引く
71	발을 뻗고 자다	B	89	足を伸ばして寝る	安心していられる
72	발을 씻다	B	81	足を洗う	足を洗う・堅気になる
73	발을 타다	G	3	足に乗る	子犬などが歩き始める
74	발이 길다	G	32	足が長い	運が良い
75	발이 내키지 않다	G	14	足が踏み出せない	気乗りがしない
76	발이 넓다	B	93	足が広い	顔が広い
77	발이 뜨다	G	3	足が浮く	足が遠のく
78	발이 맞다	G	13	足が合う	足並みがそろう
79	발이 묶이다	E	57	足が縛られる	足止めをかう
80	발이 손이 되다	F	46	足が手になる	しきりに頼む
81	발이 익다	G	6	足をつなぐ	その道に慣れている
82	발이 잦다	G	6	足が頻繁だ	ある場所によく行く
83	발이 저리다	B	86	足がしびれる	悪い事をして気になる
84	발이 짧다	G	30	足が短い	遅く来てごちそうにありつけない
85	다리를 뻗고 자다	A	99	脚を伸ばして寝る	安心していられる
86	다리품을 팔다	E	56	脚の手間を売る	道をたくさん歩く・まじめに事に当たる

10) 몸 (身)

「몸 (身) に関する慣用句」については、イム・パルヨン (2006) では、日本語の用例を 65 例、韓国語の用例は 17 例集めている。今回の調査では、87 番から 101 番までの 15 問を用意した。使用レベルが最も高い慣用句は、89 番の「몸으로 때우다 (体で補う)」97 人に続き、101 番「몸살이 나다 (身から邪気が出る)」96 人である。「몸살이 나다」の「몸살」は、「몸 (身)」と「살 (邪気)」から成っている。意味としては「(あることがしたくて) たまらない」、「病気だ・悪寒がする」とあるが、前者より後者の意味で使うことが多い。例えば「過労が原因で具合悪くなる」ことを「몸살이 나다」と言う。

(表 11)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
87	몸 들 곳을 모르다	B	83	体の置き所を知らない	どう対処すべきか知らない
88	몸에 배다	C	77	体にしみる	身につく
89	몸으로 때우다	A	97	体で補う	お金で解決することを働いて返す
90	몸을 가지다	G	18	体を持つ	妊娠する
91	몸을 두다	G	12	体を置く	勤める・身を寄せる
92	몸을 바치다	B	92	体を捧げる	献身する
93	몸을 받다	G	9	体を受ける	(目上の人の)代わりを務める

94	몸을 버리다	E	52	体を捨てる	貞操を奪われる・健康を害する
95	몸을 붙이다	G	13	体をくっつける	寄宿する
96	몸을 쓰다	F	46	体を使う	体を使って芸をする
97	몸을 팔다	C	76	体を売る	売春する
98	몸을 풀다	F	40	体をほぐす	出産する・疲れを癒す
99	몸이 나다	G	4	体がでる	太る
100	몸이 달다	G	20	体が熱くなる	(気や心が)せく、逸る
101	몸살이 나다	A	96	身から邪気が出る	(あることが)したくてたまらない・病気だ・悪寒がする

1 1) 애 (内臓)・뱀 (腸)・쓸개 (胆嚢)

「애」は、内臓を意味するが、「애」が単独で使われる慣用句もあれば、104番「애간장을 저미다(肝臓を切り刻む)」と105番「애간장을 태우다(肝臓を燃やす)」のように「애」に「간장(肝)」が付いて成す慣用句もある。今回は「애」慣用句を中心に調査をした。肝を意味する「간・간장」を使う慣用句も数多くあるが、これについては、『信州大学人文社会科学研究所』第2号の「韓国語身体語彙慣用句の研究(1)－韓国語教育・日韓比較文化論のために－」にて発表してある。105番の「애간장을 태우다(肝臓を燃やす)」が今回の調査慣用句の中で「使う」と全員が答えた唯一の慣用句である。

106番「뱀이 꼴리다(腸が立つ)」の「뱀」は「腸」を意味し、「꼴리다」は固く硬直することを意味して、全体で怒りが込み上げることを意味する。「쓸개」は「담(膽)」とも言うが、漢方医学では大胆な勇気を作り出す臓器として知られている。したがって、「쓸개가 빠졌다(胆嚢が抜けた)」ということは、勇気がなくて卑怯だということになる。この意味が拡大、変化して常識外れの人、定見のない人のことを批判する場合に使われている。

(表 12)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
102	애가 마르다	G	23	内臓が乾く	じりじりする
103	애가 터지다	G	34	内臓が破れる	とても気に障る
104	애간장을 저미다	G	14	肝臓を切り刻む	胸が痛む
105	애간장을 태우다	A	109	肝臓を燃やす	気をもませる
106	뱀이 꼴리다	F	42	腸が立つ	腹が煮えくり返る
107	쓸개가 빠지다	E	59	胆嚢が抜ける	腑抜け

1 2) 뼈 (骨)

「뼈(骨)」は、「苦勞」の意味として使われることが多い。使用レベルが最も高い慣用句は109番「뼈도 못 추리다(骨も拾えない)」であるが、あまりにもひどい目にあつて、骨までがぼろぼろになって骨の跡形もないという意味である。112番の「뻗골에 사무치다(骨髓にしみる)」は「뼈에 사무치다(骨にしみる)」と言うことが多いと答えた学生が数人いた。

(表 13)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
108	뼈가 빠지게	C	78	骨が外れるように	骨身を惜しまずに
109	뼈도 못 추리다	A	103	骨も拾えない	さんざんな目にあう
110	뼈를 갈다・깎다	E	59	骨を削る	骨が粉になるくらい苦勞する

111	뼈에 사무치다	C	74	骨にしみる	恨み、苦痛、喜びなどが骨に染みる
112	뱃골에 사무치다	G	6	骨髄にしみる	骨髄に徹する
113	뱃골을 빼다	G	7	骨髄を抜く	さんざん苦勞する
114	뱃골이 빠지다	G	32	骨髄が抜ける	苦勞する
115	뱃골이 아프다	G	11	骨髄が痛い	骨身にこたえる
116	뼈대가 있다	D	68	骨がある	家柄が良い・芯が強い

13) 심장 (心臓)

「심장 (心臓) に関する慣用句」は、他の部位に比べて日本語も韓国語も少ない。イム・パルヨン (2006) には、「심장 (心臓) に関する慣用句」は3例しかない。両国語において「심장 (心臓) に関する慣用句」が少ない理由は、日本語にも韓国語にも多数の「가슴 (胸) に関する慣用句」が存在するからではないかと考えている。要するに「심장 (心臓)」と「가슴 (胸)」は、関連性の高い身体部位であることから「심장 (心臓) に関する慣用句」で表すことも「가슴 (胸) に関する慣用句」で表していると思われる。

一方日本語の「心臓が強い」という意味の慣用句は韓国語にもあり、それが 118 番の「심장이 강하다 (心臓が強い)」であるが、この慣用句は調査結果でもわかるように使用レベルが低い方である。実は、この慣用句よりも同じ意味を表す「강심장 (強心臓)」という言葉がよく使われているからである。

- 例) 「심장이 강하다」 → 제 친구는 **심장이 강해요**. (私の友達は心臓が強いです)
「강심장」 → 제 친구는 **강심장이예요**. (私の友達が強心臓です)

(表 14)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
117	심장을 찌르다	D	65	心臓を刺す	核心を突く・感情を傷つける
118	심장이 강하다	D	65	心臓が強い	心臓が強い
119	심장이 끓다	G	29	心臓が沸く	腹が立つ
120	심장이 약하다	B	93	心臓が弱い	心臓が弱い

14) 피 (血)

「피 (血) に関する慣用句」は、日本語の場合数が多くて、イム・パルヨン (2006) では 40 例を集めている。その中に他の部位より韓国語の「피 (血) に関する慣用句」と「同じ表現・同じ意味」を持つ慣用句が多い。表の右最後列で*が付いているのがそれである。

調査結果を見ると、他の部位に比べて 100 人を超える学生が使うと答えた慣用句が多い。韓国人と言えば、「情熱的」なイメージがあるが、その現れであろうか。

128 番「피도 마르지 않다 (血も乾かない)」と 129 番「피도 안 마르다 (血も乾かない)」は、意味は同じ慣用句で、ただ否定の表現が異なるだけである。そしてこの慣用句は、「머리에 피도 마르지 않다 (頭に血も乾かない)」・「이마에 피도 안 마르다 (額に血も乾かない)」のように「머리 (頭)」や「이마 (額)」と共に使うことが一般的で、意味は「まだ生まれて間もない」ということで「まだ幼い」の意味を持っている。別の言い方では、「출생신고예잉크도 안 마르다 (出生届にまだインクも乾いてない)」がある。

142 番以降は、「피 (血)」と他の名詞が融合してなしている慣用句である。147 番「혈안이 되다 (血眼になる)」と 148 番「혈육을 나누다 (血肉を分ける)」の「혈 (血)」は、「피 (血)」の漢語である。

(表 15)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
121	피가 거꾸로 솟다	A	106	血が逆流する	*頭に血がのぼる
122	피가 끓다	A	96	血が沸く	*胸を躍らせる
123	피가 마르다	B	91	血が乾く	*心配や悩みで苦しい
124	피가 썩기다	G	1	血がぴんと張る	肉親間で親和力がある
125	피가 통하다	F	47	血が通じる	*暖かい思いやりがある
126	피는 물보다 진하다	A	104	血は水より濃い	血縁の繋がりが強い
127	피도 눈물도 없다	A	104	血も涙もない	*血も涙もない
128	피도 마르지 않다	G	32	血も乾かない	ほんの子供だ
129	피도 안 마르다	E	54	血も乾かない	ほんの子供だ
130	피로 피를 씻다	G	12	血で血を洗う	殺傷を殺傷で報復する 血を血で洗う
131	피를 나누다	C	78	血を分ける	*血縁関係にある
132	피를 마시다	G	29	血を飲む	固く誓う
133	피를 말리다	C	79	血を乾かす	非常に苦しめる
134	피를 받다	G	16	血をもらう	*血を受け継ぐ
135	피를 보다	F	44	血を見る	*死傷者を出す・不意の 災いをこうむる
136	피를 빨다	F	44	血を吸う	他人から吸い上げる
137	피를 토하다	A	96	血を吐く	*激烈な義憤を吐く
138	피를 흘리다	C	77	血を流す	死傷者を出す・犠牲になる
139	피에 울다	G	1	血に泣く	ひどく悲しむ
140	피에 주리다	G	10	血に飢える	欲望が沸く
141	피와 살이 되다	B	88	血と肉になる	*知識などが身につく
142	핏대가 서다	B	91	血管が立つ	激怒する
143	핏대를 세우다	B	88	血管を立てる	青筋を立てて怒る
144	핏줄이 쓰이다	G	9	血筋が使われる	同族として親しさを覚 える
145	피땀을 흘리다	C	74	血汗を流す	*一生懸命に働く
146	피똥을 싸다	A	102	血便をもらす	非常に厳しい状況に苦 しむ
147	혈안이 되다	B	83	血眼になる	あることに狂奔する
148	혈육을 나누다	F	44	血肉を分ける	血縁関係である

15) 숨 (息)・목숨 (命)

「숨 (息)」と「목숨 (命)」は、別の言葉であるが、「生命」の面で密接な関係があるため一緒にまとめた。1) 이마 (額) から 14) 피 (血) までの慣用句と比べて、ばらつきはあるものの使用レベルの平均が高い。意味においては、「숨 (息)」と「목숨 (命)」の持つ性質と関係のある慣用句が多いのは言うまでもない。ほとんどの学生が使うと答えたものは、156 番の「숨이 가쁘다 (息が苦しい)」と 163 番の「목숨을 걸다 (命を懸ける)」である。

(表 16)

番	慣用句	ア	イ	逐語訳(日本語)	慣用句の意味(日本語)
149	숨 실사이 없다	D	60	息を吸う間がない	息をつく暇もない

150	숨을 거두다	A	99	息を引き取る	亡くなる
151	숨을 고다	G	21	息を煮込む	虫の息になる
152	숨을 끊다	C	75	息を切る	命を断つ
153	숨을 넘기다	E	54	息を超す	息が出来なくて死ぬ
154	숨을 돌리다	A	95	息を回す (一息つく)	息を抜く (息抜きをする)
155	숨을 쉬다	A	96	息を吸う	息をする
156	숨이 가쁘다	A	107	息が苦しい	息切れする
157	숨이 끊어지다	C	79	息が切れる	息が絶える
158	숨이 넘어가는 소리	A	98	息が傾く声	切迫して出す声
159	숨이 막히다	B	89	息が詰まる	緊張して苦しい
160	숨이 붙어 있다	C	74	息がついている (息をしている)	まだ生きている
161	숨이 죽다	F	48	息が死ぬ	生気がなくなる
162	목숨을 거두다	B	81	命を収める	息を引き取る
163	목숨을 걸다	A	104	命を懸ける	全力を尽くす
164	목숨을 끊다	B	85	命を断つ	自殺する
165	목숨을 도모하다	G	7	命を図る	死地に活路を見出す
166	목숨을 바치다	A	97	命を捧げる	命を捧げる
167	목숨을 버리다	B	84	命を捨てる	死ぬ思いで懸命に働く
168	목숨을 아끼다	C	74	命を守る	命を惜しむ
169	목숨을 잃다	B	91	命を失う	命を失う・死ぬ
170	목숨이 왔다 갔다 하다	B	87	命が行ったり来たりする	危機一髪の状況に至る

4. 表現が僅かに異なるだけの慣用句

(表 17) には、韓国大学生が調査慣用句のうちいくつかの慣用句に対して、同様の意味であるが、言い方が少し違うものがあると答えたものを集めたものである。A 欄には調査した慣用句、B 欄には表記が僅かに異なるだけの慣用句をあげた。なお、この中で 1、2、5 番は「韓国語身体語彙慣用句の研究 (1)」で扱った慣用句である。

ここで扱う慣用句の特徴は、머리 (頭) - 이마 (額)、눈 (目) - 눈썹 (眉)、허리 (腰) - 배 (腹) - 배꼽 (お臍)、발 (足) - 다리 (脚)、굶주리다 (飢える) - 주리다 (餓える)、뼈와살 (骨と肉) - 피와살 (血と肉) のように密接な関係にある言葉が入れ替わった形の慣用句がほとんどである。

(表 17)

番	A 欄 言い方が異なる慣用句	逐語訳 (日本語)	B 欄 調査対象慣用句
1	머리에 피도 안 마르다	頭に血も乾かない	이마에 피도 안 마르다
2	머리를 맞대다	頭を突き合わせる	이마를 맞대다
3	눈도 까딱하지 않다	目をビクともしない	눈썹도 까딱하지 않다
4	허리를 잡고 웃다 배를 쥐고 웃다 배꼽을 잡고 웃다	腰を掴んで笑う お腹を掴んで笑う お臍を掴んで笑う	허리를 쥐고 웃다
5	손이 발이 되도록	手が足になるくらい	발이 손이 되다
6	마당발이다	偏平足だ	발이 넓다

7	발품을 팔다	足の手間を売る	다리품을 팔다
8	피에 굶주리다	血に餓える	피에 주리다
9	뼈와 살이 되다	骨と肉になる	피와 살이 되다

5. 調査に含まれていない慣用句

(表 18) は韓国大学生が調査対象にはなっていないが、使うと書き込んでくれた慣用句である。1 番「혀끝이 쓰다 (舌先が苦い) は、舌先は味覚機能として甘さを感じる部分であるが、甘いと感じるはずのものが「苦い」感じることから「食欲がない」と意味として使われる。6 番の「뼈와 살을 분리하다 (骨と肉を分離する)」は、読んだ瞬間恐ろしいと感じたが、実はこれは流行語だったようである。契機は、『ラッキーチャン』(キム・ソンモ) という韓国漫画に出てくる台詞である。内容は、名門高校に喧嘩が強くて人間味溢れる生徒が転校してくることによって起きることを描いている。漫画の中で高校生たちが喧嘩をするときに「너의 뼈와 살을 분리해 주마 (お前の骨と肉を分離してやる!）」と言ったことから流行語になり、しばらくギャグの素材ともなっていると学生から聞いた。9 番の「똥줄 타다 (腸が焼ける)」の「똥줄」は、「똥 (糞) + 줄 (線・紐)」で「腸」を意味する。

(表 18)

番	調査慣用句以外の慣用句	逐語訳 (日本語)	慣用句の意味
1	혀끝이 쓰다	舌先が苦い	食欲がない
2	몸을 사리다	身を守る	全力を出さない
3	간 쓸개 다 내놓다	肝、胆嚢全て取り出す	プライドを捨てる
4	뼈가 으스러지다	骨が砕ける	身を粉にする
5	뼈가 시리다	骨が冷たい	骨に染みる
6	뼈와 살을 분리하다	骨と肉を分離する	酷い目に合わせる
7	골이 비다	骨が空っぽにある	定見がない・常識がない
8	심장이 터지다	心臓が割れる	胸が痛む・苦しい
9	똥줄 타다	腸が焼ける	緊張する

6. おわりに

この慣用句の研究をしながら身体語彙慣用句の数の多さにまず驚いた。もうひとつ驚いたことは、日本語の方が韓国語より身体語彙慣用句の用例がもっと多い⁶ ということである。その理由として考えたのは、言葉は国民性を反映しているということである。日本の国民性と言えば、「物事ははっきり言わない」、「遠慮深い」と言った外国人から見ると、少し不満な要素として捉えられているが、これは「日本の美德」の要素が遥かに大きいと筆者は考えている。要するに日本語に慣用句が多く存在するのは、様々な理由があるだろうが、その中に物事をストレートに言わないで婉曲に言う国民性も影響しているのだと思われる。

だから慣用句が多いのではないだろうか。

この慣用句研究により韓国語の数多い身体語彙慣用句の中で、下半身と体全体に関わる慣用句を中心に韓国で実際よく使われている慣用句が何かを把握することが出来た。これを基に「韓国語身体語彙慣用句の研究 (1)」に引き続き、教育現場で学習者により充実した慣用句表現の教育を目指して、日韓両国語の慣用句の異同に気づかせ、韓国人とより円滑なコミュニケーションが取れるようにし、日韓比較文化論を構築し、ひいては日韓文化交流の一助にもなれるように努めたい。そして重複するが、韓国語の身体語彙慣用句のそれぞれの意味と使用状況がわかるリストが出来たということは、大きな成果であると思っている。

「韓国語身体語彙慣用句の研究(3)」では、日韓両国語の身体語彙慣用句の特徴をまとめて論述し、その成果を日本人に対する韓国語教育に役立つよう私案を述べ、さらにそれをもとに日韓比較文化論を構築したいと考えている。

謝辞 この研究にあたって御指導を賜った馬瀬良雄先生をはじめ、多くの方々に心より御礼申し上げ、調査に協力して下さった李晞洙先生と清州大学校の学生の皆さんに心より御礼申し上げます。

注

- 1 延鎮淑(2008) 「韓国語身体語彙慣用句の研究(1)」 『人文社会科学研究 2』 信州大学人文社会科学研究会
- 2 『관용어사전』 (慣用句辞典) 박영준·최경봉 편저 태학사
- 3 急に悟る・急にひらめく
- 4 時期が近づいて来る。目の先に迫っている。
- 5 不満だ。不満な顔をする。
- 6 임팔용(2006) 『한·일 신체어휘 관용구의 대조연구』 の資料として日本語の場合 907 例、韓国語の場合 626 例を集めている。

主要参考文献

- 권익호(2006) 『한일 양국 신체어휘 관용어의 비교·대조 연구』 충남대학교 대학원 박사학위논문
- 김준기(2003) 『현대국어 관용어 연구』 한국어문화사
- 김향숙(2003) 『한국어 감정표현 관용어 연구』 한국문화사
- 남광우·이웅백·이을환(1991) 『국어대사전』 국어사전편찬회편 민중서관
- 박영준·최경봉(1996) 『관용어 사전』 태학사
- 신기철·신용철(1974) 『새 우리말 큰사전』三省出版社
- 임팔용(2006) 『한·일 신체어휘 관용구의 대조연구』 한국외국어대학교 일본연구소 발행 제이앤씨
- 최용훈(1992) 『문법·독해·관용어연구』 종합출판사
- 崔宅浩(2004) 『韓·日兩言語의 身體語彙를 使用한 慣用表現 研究』 語文學社
- 네이버 <http://www.naver.com/>
- 井上宗雄(1992) 『例解慣用句辞典』創拓社
- 林八龍(2002) 『日·韓兩國語の慣用的表現の対照研究』明治書院
- 大野晋、柴田武編(1977) 「語彙と意味」『岩波講座日本語』岩波書店
- 国広哲弥(1985) 「慣用句論」『日本語学』1月号 明治書院
- 小学館国語辞典編集部(2006) 『精選版日本語大辞典』小学館
- 新村出編(2008) 『広辞苑』第6版 岩波書店
- 星野命(1976) 「身体語彙による表現」『日本語講座』第4巻 大修館
- 村田明編(1988) 『大辞林』三省堂
- 油谷幸利他編(1993) 『朝鮮語辞典』小学館
- 和田節(1969) 「からだことば考」『思想の科学』9 4 思想の科学社

(信州大学 全学教育機構 外国語准教授)
2009年2月26日 採録決定